

②「なべっ」遠足
またも中止に

昨年10月29日
(火)に計画されていた海老名運動公園でのきりたんぽ鍋を食す会は天候不良予報のため残念ながら中止しました。

③「えびな市民まつり」で
会員募集

海老名市広報での会員募集のほか昨年11月17日の「えびな市民まつり」でも会員募集を行い、1名の方が新規に入会されました。

秋田県の話

奥羽本線不通区間
運転再開

昨年の7月の豪雨で被災し、不通が続いていたJR奥羽本線の新庄(山形県)～院内(秋田県湯沢市)間について、4月25日から運転することが発表された。

奥羽本線は約9カ月ぶりに全線で運転されることになる。現在代行バスが走っている。■

あきたこまちが突然変異！
新品種「ズッパースン」
ってどんな米？

大館市の農産物直売所の米売り場に1月、見慣れない名前の米が並んだ。「ズッパースン」。江戸時代から続く地元の米作農家の9代目が、あきたこまちの変異株から長年交配を繰り返して開発した新品種だ。

15ヘクタールの田んぼで米を育てる畠山和夫さん(76)。20歳でスイスに渡り、1年半農業を勉強し、帰国してからほどなくして家業を継いだ。主に「あきたこまち」を生産している。



転機は50歳のころ。各地でブランド米競争が過熱し、畠山さんも「あきたこまちを上回る、大館産のブランド米を手掛けてみたい」との思いを抱いた。

自ら育てるあきたこまちの田んぼで、成長が早い大きな穂を選抜し、交配して育苗を試みたが、最初の10年ほどはまったく成果が出なかった。2011年8月5日。いつものように田んぼに目を凝らしていると、いままでになく成長が早く、ひととき大きな稲穂を見つけた。当時、「震えるぐらい、成功する予感があった」。

粒の大きさと食味の良さが自慢の派生品種が誕生した。「たくさん」という意味の秋田弁「ずっぱり」と、地元で貧しい人たちを救ったと伝わる医者「三哲」から「さん」と命名。あきたこまちの収穫で、地元のヒーローにあやかっただけで、人気が出るようにとの思いを込めた。



あきたこまち
ズッパースン
約1ミリ長く
約1.5倍の重さ

今年の新米からズッパースンを関東で扱う予定の米卸会社ミツハシ(横浜)の担当者は「大粒で食べ応えがあり、食味もあきたこまちに劣らない。個性的な銘柄の名前が消費者に受け入れられれば、とても可能性を感じる」と話す。昨年、横浜市内で直営するレストランで1カ月ほど提供したところ、食べた9割の客がアンケートで「おいしい」と答えたという。

米国に続き、農水省の品種登録を果たした。県農場試験場によると、米の品種登録は育成した自治体などが登録するのが一般的で、個人による登録は珍しいという。

これまで、あきたこまちが主力だった畠山さんは今年、15ヘクタールの田んぼすべてをズッパースンの生産に変える計画だ。収量は昨年の20トンから約100トンに増える。「あきたこまちを超える100点満点の米ができた。倒伏に強く、寒さや暑さへの耐性もあり、栽培に興味を持ってくれている農家もいる。いずれば海外への輸出もめざしたい」ズッパースンは

県内では、大館市の農産物直売所「陽気な母さんの店」で買える。5キログラム3880円(税込)。

(朝日新聞より)



今年は大雪



2月中旬過ぎに冬型の気圧配置や、気圧の谷の影響で、県北部を中心に大雪となった北秋田市鷹巣では、21日午前6時時点の積雪深が141センチに達し、統計がある1979年以降の観測史上最大を更新した。県北部の学校が休校となったほか、交通機関も乱れた。